

～あなたの集落、どんな状況にあるかわかりますか？～

平成29年度地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：中山間地域における、外部資源を活用した地域の生活支援ニーズ・シーズのマッチングシステム構築のための基礎的調査研究

研究代表者：社会福祉学部 准教授 庄司知恵子 課題提案者：奥州市北股地区振興会

研究メンバー：菅野道生（副代表・社会福祉学部）、阿部睦雄（北股地区振興会会長）
佐藤清水（北股地区振興会事務局長）

キーワード：中山間地域、集落機能、生活支援ニーズ・シーズ

▼研究の概要

本研究では、過疎高齢化の進んだ中山間地域である岩手県奥州市北股地区をフィールドとし、住民の生活ニーズ（支援して欲しい・手伝って欲しい）とシーズ（支援できる・手伝える）のマッチング条件を探るために、6集落の現状と課題を明らかにすることを目的とした。調査結果をもとに、報告会の機会を設け、地域における生活課題を住民と共有し、住民による問題解決能力の醸成を図った。

▼研究の内容

（1）研究の背景

平成26年度に行った調査※1では、地区内において生活支援ニーズを上回るシーズが確認された。また、シーズが十分にあるにもかかわらず、地域における将来の生活に不安を感じる世帯が半数を上回った。ニーズとシーズが結びつかない理由を明らかにし、住民が生活を送る上での不安を払拭し、地域の将来像を描き出すことが重要であると考えた。

（2）調査の実施

北股地区内の6つの集落それぞれについて、集落内における自治や共助の機能がどの程度維持されているかについて、聞き取り調査を行った。具体的には集落単位のヒアリングを通じ、行事の運営や各種住民組織の運営、住民相互の生活支援活動などについて集落内部で「できていること」と「できなくなっていること」について聞き取りをおこなった。調査では、各集落の住民有志が集まってもらい、2時間ほど、問いに対して自由に回答をしてもらった。

（3）報告会の実施

「平成26年度調査」および（2）の調査結果を踏まえ、自治会長らを中心とした組織において、シーズ・ニーズマッチング条件及び、集落内で出来ること、集落間連携の必要性、北股地区全体での対応、外部資源の利用について検討を行った。これら作業を通して、住民における問題意識共有を目的に報告会を設け、住民による問題解決能力の醸成を図った。

※1 平成26年度岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究「過疎地域のニーズ・シーズ調査を基にしたストレングスの分析と住民主体の地域づくり」研究代表者 菅野道生（岩手県立大学）、岩井憲男（奥州市社会福祉協議会）

対象地域における住民の生活支援ニーズ・シーズ調査

・地域全体ではすべての項目でシーズがニーズを上回った
↓
地域に潜む相互支援のポテンシャルが可視化された

実施項目	ニーズ		シーズ	
	世帯数	割合	世帯数	割合
生活支援ニーズ	140	37.0%	141	36.1%
生活支援ニーズ	130	32.8%	144	36.9%
生活支援ニーズ	86	22.1%	142	36.4%
生活支援ニーズ	42	10.7%	117	29.9%
生活支援ニーズ	42	10.7%	105	27.0%
生活支援ニーズ	37	9.5%	121	30.8%
生活支援ニーズ	35	8.9%	110	28.2%
生活支援ニーズ	34	8.7%	108	27.8%
生活支援ニーズ	27	6.9%	117	29.9%
生活支援ニーズ	27	6.9%	105	27.0%
生活支援ニーズ	27	6.9%	105	27.0%
生活支援ニーズ	18	4.6%	119	30.5%
生活支援ニーズ	17	4.3%	121	30.8%
生活支援ニーズ	16	4.1%	134	34.3%
生活支援ニーズ	15	3.8%	125	31.9%
生活支援ニーズ	14	3.6%	119	30.5%
生活支援ニーズ	14	3.6%	119	30.5%

【図1】北股地区における生活支援ニーズとシーズ状況（平成26年度調査より）



【写真1】外の沢行政区での聞き取り調査の様子（平成29年9月7日）

▼研究の成果

（1）調査結果より

- ①集落の行事・共同作業の減少はどの集落においても共通
- ②世帯数の減少が原因ではない（ピーク時から1,2世帯の減少）
- ③若年層の働き方（兼業化）、世代をつなぐ「こども」の減少が背景
- ④生活課題を「共有」する場、「相対化」する場がない
- ⑤「遠慮」による支援の難しさ

（2）報告会より

50名の住民が参加。個別の生活課題の支援や共同作業等の集落機能の維持をどのようにしていくか、活発な意見交換が行われ、今後の展開に結びつく意識の共有ができた。



【写真2】住民を対象とした報告会の様子（平成30年1月28日 於：北股地区センター）

▼おわりに

本研究の最終的な目標は、過疎高齢化の進んだ中山間地域である岩手県奥州市北股地区をフィールドとし、生活支援ニーズとシーズのマッチングシステムを構築することである。そのために、平成29年度は、住民の基礎的な生活圏域である集落の生活状況について聞き取りを行った。平成30年度は、ニーズとシーズを結びつける拠点（ボランティアセンター（仮名））を設置し、住民の手による運営のもと地域課題の解決に取り組んでもらうことを目指す。